

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富南小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- |  |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。<br>②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。<br>調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|--|

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

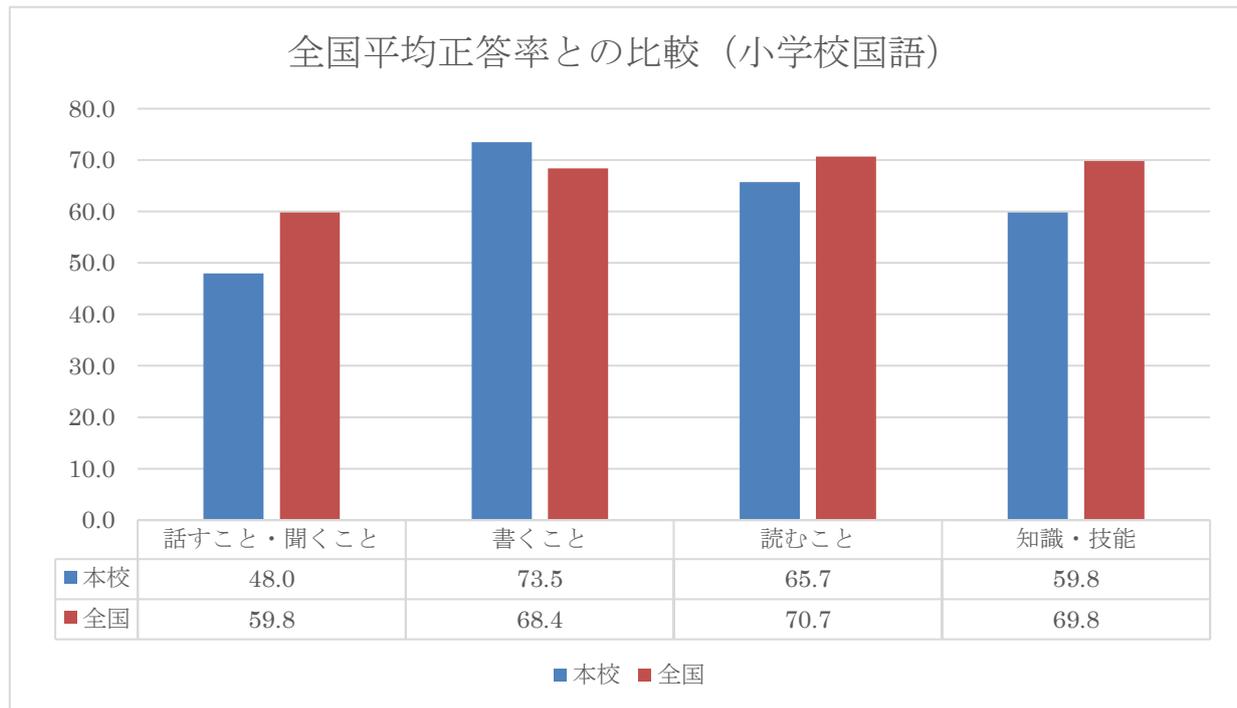
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語



#### (1) 結果

国語科全体では、全国正答率 67.7% に対して、本校の正答率は 61.0% であり、6.7 ポイント下回りました。領域別では「話すこと・聞くこと」「読むこと」「知識・技能」に課題があります。

領域別正答率では、「話すこと・聞くこと」では 11.8 ポイント、「読むこと」では 5 ポイント、「知識・技能」では 10.0 ポイント、それぞれ下回りました。最も下回ったのは、「話すこと・聞くこと」の領域でした。一方で「書くこと」については全国平均正答率を 5.1 ポイント上回る結果となりました。

#### (2) 成果と課題

成果が見られたのは大問2二「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」(+8.1)の設問です。

課題が見られたのは全国を 10 ポイント以上下回った設問で、全部で6問ありました。大問3四「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付くことができるかどうか」(-18.7)、大問1一「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうか」(-18.4)、大問2三「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうか」(-14.2)、大問1三「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうか」(-13.8)、大問3一「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうか」(-12.3)、大問1二(1)「話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうか」(-11.2)などの設問を解く力に課題が見られます。

### (3) 学力向上のための取り組み

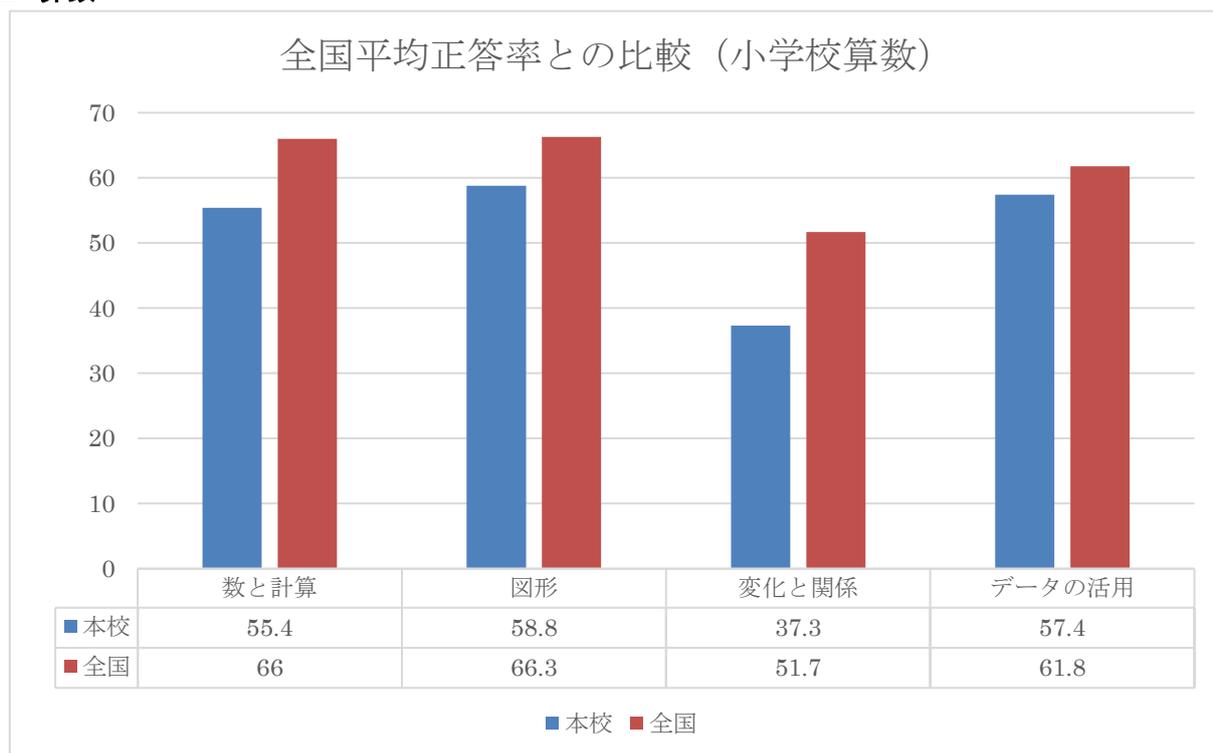
#### 【学校では】

- 読書タイムでは、図書室からの「おすすめ 50 冊」の本を中心に読んだり、物語やエッセイなど文章量のある本を読んだりして、読書の習慣化や読解力の定着を図っています。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。また、日記やふりかえりの場面でテーマなどの条件を付けて書く機会も増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力をいれるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- これまで朝の時間に取り組んできた「聴き合いタイム」の経験を生かし、視点を明確にした対話的な活動を取り入れています。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。
- 「なぜ」「どうして」などの理由を問う発問や複数の読み取ったことを関連付けて考える発問を工夫し、子どもたちが主体的に学び、より考えを深められるように指導しています。
- 一人一台学習者用パソコンを活用し、一人ひとりの興味・関心や習熟度別に応じて、繰り返し学習して習熟を図ったり、発展的な問題にチャレンジして活用力をつけたりします。

#### 【ご家庭では】

- 音読を大切にいきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 子どもが音読をしている間はなるべく大人が手をとめて音読を聴く姿勢を意識しましょう。子どものモチベーションアップになります。読み終わった後に、「上手だったね」「気持ちもちがこもっていたね」など一言褒めてあげると自信がつきます。物語などでは、感想を聞いてみるのもおすすめです。
- 読書を大切にいきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。
- 本の読み聞かせは、「自己肯定感」を高めます。「自己肯定感」を高めることは、交友関係や学力にも良い影響を及ぼし、自信をもって行動ができるようになります。

## 2 算数



### (1) 結果

算数科全体では、全国正答率 63.4% に対して、本校の正答率は 55.0% であり、8.4 ポイント下回りました。領域別正答率をみると全ての領域で下回りました。「数と計算」では 10.6 ポイント、「図形」では 7.5 ポイント、「変化と関係」では 14.4 ポイント、「データの活用」では 4.4 ポイントそれぞれ下回りました。最も大きく下回ったのは「変化と関係」の領域でした。

### (2) 成果と課題

成果がみられたのは大問 4 (1) 「除数が小数である場合の除法の計算」(+6.4)、大問 5 (1) 「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る」(+4.5)、大問 5 (2) 「簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する」(+3.2) 設問です。

課題がみられたのは全国を 10 ポイント以上下回った設問で、全部で 7 問ありました。大問 4 (3) 「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」(-19.2)、大問 1 (1) 「問題場面の数量を捉えて式に表す」(-18)、大問 1 (2) 「数量の関係を、□を用いた式で表す」(-17.9)、大問 5 (4) 「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうか判断する」(-16.9)、大問 3 (1) 「直方体の見取図について理解し、かくことができる」(-14.9)、大問 4 (4) 「速さの意味について理解している」(-12.9) 大問 4 (2) 「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する」(-11.2) などの設問を解く力に課題が見られます。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 低・中・高に応じた問題提示を工夫しています。問題の中から解決に必要な情報を読み取る習慣をつけています。
- 児童の実態に応じて適用問題を準備し、身に付けた知識や思考力・判断力・表現力を活用して適用問題に取り組む時間を確保しています。
- 児童の実態に応じて算数音読を取り組み、算数用語の定着を図っています。
- 各学年で振り返りのポイントを設定し、算数用語を使ったまとまった文字数の文章を書く指導をしています。
- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたりしています。また、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、ペアやグループで話し合う活動を取り入れていきます。図・式・言葉を使って自他の考えを表現・想像し、つなげることで考えを広めたり、深めたりしています。さらに、図や式、言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。
- 一人一台学習者パソコンを活用し、一人ひとりの興味・関心や習熟度別に応じて、繰り返し学習し習熟を図ったり、プログラミングや発展的な問題にチャレンジして活用力をつけたりしています。

#### 【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」「お菓子里に空き箱を開いて組み立てる」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。ゲーム感覚で親子一緒に楽しめる算数遊びを是非やってみてください。

#### 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

##### (1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	80.0%	83.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	34.3%	39.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	71.4%	56.1%
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか 「4時間以上」	22.9%	17.7%
「3時間以上、4時間より少ない」	17.1%	12.6%
「2時間以上、3時間より少ない」	28.6%	18.9%
「1時間以上、2時間より少ない」	20.0%	25.1%
「1時間より少ない」	5.7%	17.7%
「全くしない」	5.7%	8.0%
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く） 「4時間以上」	11.4%	11.9%
「3時間以上、4時間より少ない」	8.6%	8.8%
「2時間以上、3時間より少ない」	20.0%	13.1%
「1時間以上、2時間より少ない」	20.0%	17.3%
「30分以上、1時間より少ない」	17.1%	13.3%
「30分より少ない」	5.7%	14.6%
「携帯電話やスマートフォンを持っていない」	17.1%	21.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	37.1%	43.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	62.9%	60.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	71.4%	71.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	85.7%	79.5%

朝食については全国平均を下回っています。また、就寝時刻が定まっていないことも気になります。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

普段のゲームやSNS、動画視聴の時間が全国平均に比べて多い傾向にあります。これらは生活リズムや家庭学習の時間にも関わってきます。情報機器の使い方の約束について確認をしましょう。

将来の夢や目標、社会貢献については全国平均をやや上回っています。規範意識についても、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果がでています。自己肯定感については全国平均も高くないですが、本校では、それをさらに下回る結果となりました。

## 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	11.4%	11.0%
「2時間以上、3時間より少ない」	5.7%	12.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	25.7%	31.1%
「30分以上、1時間より少ない」	40.0%	27.0%
「30分より少ない」	14.3%	13.0%
「全くしない」	2.9%	5.3%
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	8.6%	7.3%
「4時間以上」		
「3時間以上、4時間より少ない」	0.0%	4.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	8.6%	9.9%
「1時間以上、2時間より少ない」	28.6%	27.1%
「1時間より少ない」	31.4%	36.2%
「全くしない」	22.9%	15.1%

普段の勉強時間が1時間未満の児童が5割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。また、休日になると全く家庭学習をしない児童の数は2割以上となりました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

### (2) 改善に向けての取り組み

#### 【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出して、基礎基本の定着や習熟を図っています。高学年ではタブレットPCを毎日持ち帰り、自分の得意不得意に合わせた学習を勧めています。これから中学年にも少しずつ広げていきます。
- 朝の読書の推奨をしたり、図書委員会を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が現れてきているので、これからも継続していきます。
- 自他の良さを認める活動を取り入れています。「ありがとうの木」で友達のよいところを紹介したり、帰りの会等で友達のよいところを認め合う時間を設定したりしています。また、毎朝の放送でも、職員が見つけた子どものよいところを紹介しています。
- いじめを容認しない、規範意識を高める教育活動をあらゆる場面で取り入れています。毎月の生活アンケートや道徳の授業、人権集会等、日々の教育活動の中で取り組んでいます。

#### 【ご家庭では】

- 家庭学習については、改善を図ろうと年に2回、中学校のテスト期間に合わせて「家庭学習がんばり週間」を設定しています。規則正しい生活と家庭学習の定着は極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 低学年・中学年・高学年別に「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習がんばり表と音読カードの2か所に貼っています。家庭学習の手引きをご覧になり、学習時間のめやすや、学習のポイントを参考にして自分で学習できるように励ましてください。